

定期作況報告

(第 4 号 令和7年8月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和 7 年 7 月下旬から 8 月中旬までの平年との比較による気象は次のとおりである（表 1）。

- 7 月下旬：最高気温はやや高く、最低気温は高く、平均気温は高かった。降水量は極めて少なく（平年比 36％）、日照時間は並（平年比 85％）。
- 8 月上旬：最高気温はやや高く、最低気温は高く、平均気温はやや高かった。降水量は極めて少なく（平年比 39％）、日照時間は並（平年比 85％）。
- 8 月中旬：最高気温は高く、最低気温は並、平均気温はやや高かった。降水量は並（平年比 84％）、日照時間はやや多かった（平年比 122％）。

表 1. 気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	24.8	23.1	1.7	30.1	28.7	1.4	20.6	18.5	2.1
8月 月上旬	23.3	22.3	1.0	28.9	28.2	0.7	19.3	17.7	1.6
8月 月中旬	21.9	20.7	1.2	28.5	26.1	2.4	16.8	16.3	0.5
平均値	23.3	22.0	1.3	29.2	27.7	1.5	18.9	17.5	1.4

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
7月 下旬	23.5	65.4	-41.9	57.5	67.4	-9.9
8月 月上旬	24.0	62.2	-38.2	48.3	56.6	-8.3
8月 月中旬	54.0	64.4	-10.4	64.9	53.2	11.7
平均値	33.8	64.0	-30.2	56.9	59.1	-2.2

2. 作 況

1) 水稻 やや不良

5月20日現在：平年並

事由： 播種は平年より3日遅い4月18日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より2日遅い5月21日に行った。移植時の草丈は平年に比べ0.6～1.0cm長く、第1葉鞘高は並から0.2cm長かった。葉数は並から0.4葉多く、茎数は平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は、「ななつぼし」は平年並で「ゆめぴりか」では0.34g重かった。苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈はいずれの品種とも平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：平年並

事由： 移植後の5月下旬はやや低温であったが、日照時間は平年をやや上回り生育は概ね順調であった。その後6月上旬および中旬の気温は平年並から高かったため、6月20日の草丈はやや長く、葉数は平年並みからやや多い。茎数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや不良

事由： 6月下旬から7月中旬の気温が高温で経過したため、生育はかなり早く進んだ。各生育期節は平年より早く、幼穂形成期は1～2日、止葉期は3～4日、出穂期は6～7日早かった。7月20日の草丈はやや長く、主稈の止葉葉数は平年並からやや多く、茎数は平年に比べて9～18%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

8月20日現在：やや不良

事由： 7月下旬以降は高温傾向であり、登熟は順調に進んでいる。成熟期の稈長はやや長く、穂長は平年並で、穂数は5～13%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

表 3. 8月20日の水稻の生育

品種名			ななつぼし			ゆめぴりか		
項 目 / 年 次			本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月.日)		4.18	4.15	3	4.18	4.15	3
	移植期 (月.日)		5.21	5.19	2	5.21	5.19	2
	幼穂形成期 (月.日)		6.21	6.22	▲ 1	6.21	6.23	▲ 2
	止葉期 (月.日)		7.06	7.09	▲ 3	7.06	7.10	▲ 4
	出穂期 (月.日)		7.13	7.19	▲ 6	7.12	7.19	▲ 7
	成熟期 (月.日)			9.04			9.04	
	穂揃日数 (日)		7	8	▲ 1	7	8	▲ 1
	登熟日数 (日)			47			47	
	生育日数 (日)			142			142	
移植時	草丈 (cm)		15.3	14.3	1.0	14.8	14.2	0.6
	葉数 (枚)		4.2	4.1	0.1	4.6	4.2	0.4
	茎数 (本)		1.9	1.9	▲ 0.0	2.1	2.1	0.0
	第1葉鞘高 (cm)		2.6	2.4	0.2	2.4	2.4	0.0
	地上部乾物重 (g/100本)		4.68	4.66	0.02	5.00	4.66	0.34
	地上部乾物重/草丈		0.31	0.33	▲ 0.02	0.34	0.33	0.01
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.3	8.1	0.2	8.9	8.4	0.5
		7月20日	10.3	10.1	0.2	10.9	10.5	0.4
		止葉葉数	10.3	10.1	0.2	10.9	10.5	0.4
	茎数 (本/m ²)	6月20日	557	538	19	589	611	▲ 22
		7月20日	655	719	▲ 64	688	839	▲ 151
	草丈 (cm)	6月20日	45.3	41.5	3.8	41.3	38.6	2.7
		7月20日	92.9	85.1	7.8	89.4	84.3	5.1
成熟期	稈長 (cm)		75.3	69.4	5.9	68.5	66.2	2.3
	穂長 (cm)		17.0	16.8	0.2	16.7	16.9	▲ 0.2
	穂数 (本/m ²)		639	673	▲ 34	684	783	▲ 99
収量構成要素	一穂粒数 (粒)			50.8			43.0	
	m ² 当たり粒数 (×千)			34.0			33.6	
	稈実歩合 (%)			95.7			93.0	
	m ² 当たり稈実粒数 (×千)			32.5			31.2	
	同上比 (%)			100			100	
	登熟歩合 (%)			89.0			83.9	
	粒摺歩合 (%)			81.1			78.7	
	屑米歩合 (%)			1.8			3.6	
	精玄米千粒重 (g)			22.4			22.7	
収量	藁重 (kg/10a)			653			626	
	精粒重 (kg/10a)			833			793	
	精玄米重 (kg/10a)			681			627	
	収量平年比 (%)			100			100	
	検査等級 (等)			1下	—		2上	—

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、令和6年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施 肥：成苗培土Hを約1.43 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 1.0、K₂O 0.8、MgO 0.2 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 10.0 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施 肥 量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 1000 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 秋まき小麦 (R6年播種) 不良

10月20日現在：良

事由： 播種は平年より4日早い9月13日に行った。その後、気温が平年並に推移し、適度な降雨もあったことから出芽期は平年より6日早かった。出芽期以降も気温が平年並からやや高く推移したことから、葉数は平年より多く、草丈および茎数は平年をかなり上回った。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

5月20日現在：良

事由： 平年と比較して、根雪始は6日、根雪終は2日遅く、積雪期間は4日短い131日であった。雪腐病発病度は並で、越冬茎歩合はやや低かった。前報以降、越冬前までに生育が進み、さらに4月中旬の気温が高かったことから、平年より草丈はかなり長く、茎数はかなり多かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

6月20日現在：良

事由： 気温は平年並みから高い傾向で推移したことから生育が順調に進み、出穂期は平年より2日早かった。草丈は平年並で、茎数は平年を上回った。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 成熟期は平年より6日早かった。成熟期の稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は生育期間を通して茎数が多く推移し、有効茎歩合も高かったことから平年を大きく上回った。稈長が長く、穂数が多いことに加え、6月27日の暴風雨により倒伏が大きく発生した。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：不良

事由： 平年より千粒重がかなり軽く、子実重は平年を大きく下回った。容積重も平年を下回った。蛋白質含有率は平年をやや上回った。

これらのことから、目下の作況は「不良」である。

表 4． 8月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期 (月. 日)		9. 13	9. 17	△ 4
出芽期 (月. 日)		9. 21	9. 27	△ 6
出穂期 (月. 日)		6. 01	6. 03	△ 2
成熟期 (月. 日)		7. 09	7. 15	△ 6
越冬茎歩合 (%)		116. 9	122. 5	▲ 5. 6
雪腐病発病度		8. 8	5. 0	3. 8
葉数(枚)	令 6年10月20日	5. 1	4. 1	1. 0
草丈 (cm)	令 6年10月20日	24. 8	16. 7	8. 1
	令 7年 5月20日	69. 7	46. 7	23. 0
	令 7年 6月20日	92. 4	90. 9	1. 5
茎数 (本/㎡)	令 6年10月20日	1198	556	642
	令 7年 5月20日	1552	1055	497
	令 7年 6月20日	833	615	218
成熟期	稈長 (cm)	94	81	13
	穂長 (cm)	8. 7	8. 6	0. 1
	穂数 (本/㎡)	818	510	308
子実重 (kg/10a)		533	571	▲ 38
同上平年比 (%)		93	100	▲ 7
容積重 (g/L)		806	841	▲ 35
千粒重 (g)		30. 9	41. 7	▲ 10. 8
蛋白質含有率 (%)		10. 1	9. 1	1. 0
検査等級 (等)			1	—

注1) 平年値は前7か年中、収穫年における令和5年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より“減”を示す。

3) 春まき小麦 やや不良

5月20日現在：やや不良

事由： 播種は平年より6日遅い4月24日に行った。播種の遅れを反映して出芽期も平年より4日遅く、草丈、茎数とも平年を下回った。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在：やや不良

事由： 前報以降の生育は順調に進み、出穂期は平年より1日早い6月17日だった。草丈は平年並みであるが、5月の生育の遅れを反映して茎数は平年より少なかった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 成熟期は平年より4日早かった。6月下旬以降、気温がかなり高く推移したことから、穂数は平年よりやや多かった。稈長は平年よりやや短い、穂長は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由： 出穂期は平年より1日早く、成熟期は平年より4日早かったため、登熟期間は平年より3日短かった。穂数は平年より多く、穂長は平年並であった。子実重は平年比96%であった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

表5. 8月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		4.24	4.18	6
出芽期 (月・日)		5.06	5.02	4
出穂期 (月・日)		6.17	6.18	△ 1
成熟期 (月・日)		7.22	7.26	△ 4
草丈 (cm)	5月20日	19.9	21.9	▲ 2.0
	6月20日	82.3	80.2	2.1
茎数 (本/㎡)	5月20日	391	650	▲ 259
	6月20日	559	752	▲ 193
成熟期	稈長 (cm)	89	93	▲ 4
	穂長 (cm)	8.2	8.3	▲ 0.1
	穂数 (本/㎡)	573	508	65
子実重 (kg/10a)		430	447	▲ 17
同上平年比 (%)		96	100	▲ 4
容積重 (g/L)			824	
千粒重 (g)			38.7	
蛋白質含有率 (%)			11.5	
検査等級 (等)			1	—

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

4) 大豆 良

5月20日現在：

事由： 播種は平年より3日早い5月16日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 出芽期は平年より2日遅い6月1日であった。主茎長は平年よりやや長く、主茎節数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：良

事由： 開花期は平年より4日早かった。6月下旬以降、気温がかなり高く推移したことから、主茎長はかなり長く、主茎節数と分枝数は多かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：良

事由： 前報以降も生育は順調に進み、主茎長は平年に比べかなり高く、主茎節数はやや多く、分枝数は平年並みで、着莢数はかなり多かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表 6 . 8月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年 次	本年	平年	比較
播種期 (月. 日)		5. 16	5. 19	△ 3
出芽期 (月. 日)		6. 01	5. 30	2
開花期 (月. 日)		7. 06	7. 10	△ 4
成熟期 (月. 日)			9. 14	
主茎長 (cm)	6月20日	16. 3	14. 7	1. 6
	7月20日	74. 2	56. 4	17. 8
	8月20日	75. 1	59. 6	15. 5
	9月20日		58. 2	
	成熟期		58. 2	
主茎節数 (節)	6月20日	4. 1	3. 9	0. 2
	7月20日	10. 9	9. 6	1. 3
	8月20日	11. 0	10. 3	0. 7
	9月20日		10. 2	
	成熟期		10. 2	
分枝数 (本/株)	7月20日	7. 2	5. 9	1. 3
	8月20日	6. 2	6. 5	▲ 0. 3
	9月20日		6. 1	
	成熟期		6. 1	
着莢数 (個/株)	8月20日	109	81	28
	9月20日		81	
	成熟期		81	
子実重 (kg/10a)			406	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			33. 1	
屑粒率 (%)			1. 4	
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、令和5年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を示す。

5) 小豆 やや不良

6月20日現在：やや良

事由： 播種は、平年より1日早い5月23日に行った。主茎長はほぼ平年並で、本葉数は平年を上回った。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：良

事由： 気温が高く推移したことから生育が順調に進み、分枝数は平年並であったが、主茎長は平年よりかなり長く、本葉数は平年より多かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

8月20日現在：やや不良

事由： 開花期は平年より3日早かった。7月下旬以降気温は高く推移し、前報期間7月中旬の降雨により得た土壤水分や8月中旬の降雨による土壤水分も十分にあったことから地上部生育が旺盛となり、主茎長は平年よりかなり長く、本葉数および分枝数は平年より多く、倒伏が目立った。また、高温の影響と考えられる落花・落莢により着莢が緩慢となり、着莢数は平年を下回った。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

表6. 8月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモ167		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.22	5.23	△ 1
出芽期 (月.日)		6.05	6.07	△ 2
開花期 (月.日)		7.20	7.23	△ 3
成熟期 (月.日)			9.10	
主茎長 (cm)	6月20日	5.2	5.3	▲ 0.1
	7月20日	33.7	25.9	7.8
	8月20日	77.5	63.7	13.8
	成熟期		69	
本葉数 (枚)	6月20日	1.4	1.1	0.3
	7月20日	10.0	8.1	1.9
	8月20日	16.1	13.1	3.0
主茎節数 (節)	成熟期		13.1	
分枝数 (本/株)	7月20日	5.6	5.8	▲ 0.2
	8月20日	7.5	5.8	1.7
	成熟期		5.7	
着莢数 (個/株)	8月20日	56	59	▲ 4
	成熟期		54	
子実重 (kg/10a)			331	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			13.8	
屑粒率 (%)			3.2	
検査等級 (等)			3上	-

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

5) ばれいしょ やや不良

5月20日現在：

事由： 植付けは平年並の5月9日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 植付け後、5月中旬の気温が高く推移したことから、萌芽期は平年より4日早かった。

茎長はほぼ平年並であった。6月中旬の気温が高く推移したことから、開花始めは平年より2日早かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由： 開花始は平年より2日早かった。茎長は平年より長かった。6月下旬から7月上旬にかけて日照時間が多く推移したことから、でん粉価は平年をやや上回った。上いも数は平年を上回ったが、上いもの平均重は下回り、上いも収量は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由： 上いも数は平年を上回ったが、上いもの平均重は下回り、上いも収量は平年並であった。でん粉価は、高温の影響により前報から低下し、平年をやや下回った。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

表 7. 8月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.09	5.09	0
萌芽期 (月.日)		5.24	5.28	△ 4
開花始 (月.日)		6.20	6.22	△ 2
枯凋期 (月.日)			8.25	
茎長 (cm)	6月20日	30.3	32.0	▲ 1.7
	7月20日	52.7	46.8	5.9
上いも数 (個/株)	7月20日	10.8	8.3	2.5
	8月20日	11.7	9.7	2.0
上いもの 平均重 (g)	7月20日	58	73	▲ 15
	8月20日	85	100	▲ 15
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2803	2657	146
	8月20日	4437	4223	214
でん粉価 (%)	7月20日	15.5	14.5	1.0
	8月20日	13.4	14.6	▲ 1.2
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.0	
	上いもの平均重 (g)		103	
	上いも収量 (kg/10a)		4525	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4072	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		3657	
	同上平年比 (%)		100	
	でん粉価 (%)		14.3	

注1) 平年値は前7か年中、令和4年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。